

23-09-26

～鉄道事業者で初の取り組み～  
駅のインターホンで、係員と電子筆談・チャット会話が可能になります

名古屋鉄道は、駅員無配置駅などにおいてお客さまが遠隔駅の係員と互いの様子を視覚的に確認しながら通話するために設置している「モニター付インターホン」(以下、インターホン)に、新たなチャット機能を搭載し、9月30日より使用を開始します。

これまでお客さまと係員が筆談する際は、双方が手書きのメモなどをインターホンのカメラに映し出すことでコミュニケーションを取っていましたが、新たなチャット機能では、インターホンのモニター上で電子筆談が可能となり、より正確に互いの情報を伝達することができます。

なお、この電子筆談が可能なチャット機能が搭載されたモニター付インターホンは、名鉄 EI エンジニア(本社:愛知県名古屋市、代表取締役社長:安藤慎)の協力のもと導入するもので、鉄道事業者としての活用は、当社が初めてとなります。

詳細は下記のとおりです。

記

1. 運用開始日 9月30日(土) 初列車から
2. 設置駅 猿投駅・日進駅・浄水駅・巽ヶ丘駅・住吉町駅・知多武豊駅・富貴駅  
河和駅・新可児駅・西可児駅・土橋駅 (計11駅)  
※今後、順次拡大を予定
3. 設置箇所 上記設置駅内の券売機・精算機付近に1台ずつ設置します。  
(合計27台)
4. 仕様 沖電気工業製のモニター付インターホンで、通話機能、画像モニターの基本仕様のほか、電子筆談が可能なチャット機能を搭載
5. イメージ



以上